



## かがやきの掲載について

研究・研修だより「かがやき」は、今年度から、よりスピーディーな情報発信を図り、こどもみらい館のホームページ（「研究・研修」のページ）を通じ、回数を増やして発行することとしています。

今後も、共同機構研修会の要約のほか、共同機構による研究・研修の取組などをお伝えしていきますので、多くの方にご愛読いただくことを心より期待しています。

**かがやきの研修会  
要約から、DVD  
貸出要項と講義要  
録へリンクできま  
す！**

よりスピーディーに講演内容をお伝えするため、「かがやき」は要約版を掲載しています。詳細につきましては、貸出用の「研究会ビデオ貸出要項」、「講義要録」をクリックしていただき、ご活用ください。

「かがやき」をきっかけに、自園(所)の研究・研修の更なる発展と、自己研鑽の幅が広がることを願っています。

## 平成24年1月27日(金)「研究プロジェクト報告会」

時間/15:00~17:30 場所/こどもみらい館4階 第1研修室

第23号でお伝えしていました終了時間が変更になりました。

こどもみらい館では、保育園(所)・幼稚園、私立・市立・国立の垣根を越えた「共同機構」による研究事業として、保育内容の更なる充実・発展や子育て支援を目指し、「保幼小連携研究プロジェクト」「子育て支援研究プロジェクト」の2つの研究プロジェクトを発足し、研究を進めています。

上記2つの研究プロジェクトの2年間の取組について「研究プロジェクト報告会」を開催します。

また、両プロジェクトのアドバイザーでもある中京大学教授 鯨岡 峻 先生の御講評もいただきます。これから「保幼小連携」「子育て支援」を立ち上げようと考えておられる園、また、進み具合に戸惑っておられる方など、自園(所)の取組のヒントになる内容が沢山あると思いますので、多くのご参加をお待ちしています。

詳細については「こどもみらい館ホームページ(研究)」をご覧ください。

## 第12回 「みらいっこまつり」開催報告

平成23年12月16日(金)・17日(土)

京都市保育園連盟「エアマットであそぼう」、京都市私立幼稚園協会「みらいっこわくわくコンサート」、京都市保育士会「おきなわエイサーおどり」、京都市営保育所長会「赤ちゃんふれあいコーナー」、京都市立幼稚園長会「クリスマスの飾りを作ろう」、京都子育てネットワーク「あかちゃんあそびましょ〜♪」、地域の自治連合会による「お茶席体験」をはじめ、劇、オルゴール、コンサートなどたくさんイベントを展開し、盛況に終えることができました。共同機構の各団体の皆様にも楽しいイベントを企画・運営していただき、本当にありがとうございました。

## 23年度 共同機構連続講座

# 気になる子どもと保育

平成23年9月15日（木） 幼稚園の実践事例を通して  
平成23年9月22日（木） 保育所の実践事例を通して

講師 大倉 得史 京都大学大学院准教授

1974年東京出身。京都大学総合人間学部卒業、同大学院人間・環境学研究科修了。京都大学博士（人間・環境学）。臨床心理士。九州国際大学講師・准教授等を経て、現在京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。専門は発達心理学。主な著書に『拡散 diffusion』（ミネルヴァ書房、2002年）、『語り合う質的心理学』（ナカニシヤ出版、2008年）、『大学における発達障害者支援を考える』（中川書店、2009年）『「語り合い」のアイデンティティ心理学』（京都大学学術出版会、2011年）、『（仮）育てるものへの発達心理学』（ナカニシヤ出版、2011年9月刊行予定）など。

### 平成23年9月15日（木） 幼稚園の実践事例を通して

幼稚園の事例からは、配慮を要する子どもへの細やかな配慮や、毎日の記録の積み重ねの大事さを感じました。

気になる子どもはなかなか集団の活動にのれない、集団のルールが分からない、そうしたところで保育者は苦労していることが多いと思います。皆さんの関心事もこうした子どもへの対応と集団活動をどう両立させていったら良いのか、いかにしてみんなが育ち合う集団を作るかということだと思います。保育の営みの一番の目標は能力の育成ではなく、自分の好きなことを思う存分にするのだという「私は私の心」と、他の人とも楽しさを共有したいという「私は私たちの心」の両面を備えた「心」の育ちです。そうした主体的な心が育まれていく、その土壌となるような人間関係の構築が保育の目標となります。そのために、保育者は、一人ひとりの子どもの思いをしっかり受け止めていくことが大切です。

#### <参加者のアンケートより>

「保育の課題を思うとき、保育者の困り感に注目してしまいがちでしたが、子どもの困り感に注目するという話が心に残りました。」「気になる子どもへの対応で、自分自身が子どもにかかわる姿を改めて見つめなおすことができました」など、気になる子どもへの保育者のかかわり方を考えるご感想がありました。

### 平成23年9月22日（木） 保育所の実践事例を通して

エピソードをもとに研修をすると、子どもと保育者の関係がどのように変化したか、また保育者の対応がどうだったのか、かなり突っ込んだ研修ができます。保育者同士の連携のためにも、保育の振り返りのためにも、エピソード記述をお勧めします。

気になる子どもにしろ、そうでないにしろ、保育者が子どもや保護者の全生活世界に思いを馳せながら、彼らがどんな体験世界を生きているのかを深く理解しようとするのが大切です。できる限り情報を集めて、想像の羽根を広げ、相手の立場に身をおいて、その体験世界を深く理解していくことによって、より厚みのある「受け止める」が可能になってきます。子どもや保護者の生きる世界への深い理解に基づいた「受け止める」によって、ときに子どもや保護者自身の側からとても前向きな力が出てくる場合があります。子どもにも保護者にも一つの主体として育てていこうとする前向きな力が必ずあると信じ、「受け止める」の質を磨いてほしいと思います。

#### <参加者のアンケートより>

「深く受け止めることを心がけて保育をしていきたいと思います」「子どもと同じ目線で一緒に体験してみる、その子に寄り添う、保護者との密なかかわりを持つなど、大切だと思いました」などの感想が多数ありました。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)

子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる  
取組を進めます。  
(「子どもを共に育む京都市民憲章」より)



発行日 平成24年1月16日  
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館  
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1  
Tel (075)254-5001 Fax (075)212-9909  
URL <http://www.kodonomirai.or.jp>